

家族ごとのライフイベントや収入・支出を書き出して  
100歳までの家計の収支をチェックしましょう。――

※60歳または65歳以降は5年刻みで記入してください。

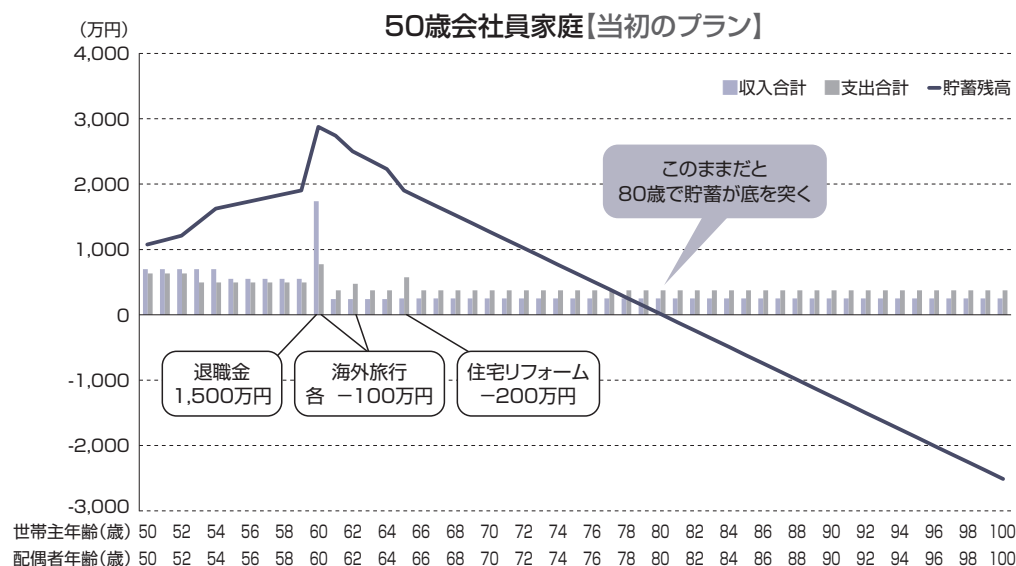
5年ごとに記入する年は、その年の収入・支出の下に5年分の累計も入れて、貯蓄残高は5年分の収支の差額を計算して記入しましょう

[illegible]

# キャッシュフロー表による 貯蓄残高の動き

標準的なモデルケースを基に、貯蓄残高の動きをグラフ化すると左下ようになります。改善した右下と比較してみましょう。

## （ 夫は60歳で定年、継続雇用後に65歳でリタイアする ）



### 設定条件

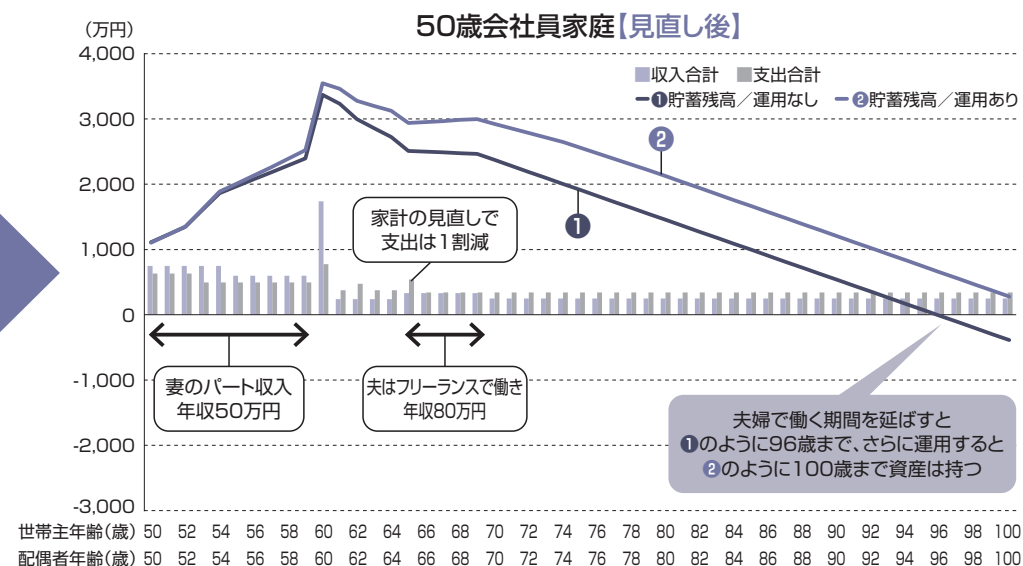
現在の年齢	夫 50歳 妻 50歳 子 20歳(大学2年)
職業	夫 会社員 妻 専業主婦
収入 (手取り額)	夫 現在 700万円 55歳～550万円 60歳～240万円
支出	生活費 当初360万円 (3年後から 340万円) 住宅ローン、教育費など
年間収支	当初 67万円
貯蓄残高	前年 1,000万円

### 妻が専業主婦の会社員家庭は 夫の定年後は赤字が続く、将来が心配

少し前の世代であれば、夫が65歳でリタイアしても、夫婦2人の老後の生活は何とかなりました。しかし、現在50代の会社員は、50代後半から年収がダウンし、60～64歳の継続雇用期間中は、年収が現役時代の半分以下になる人がほとんど。その頃から家計収支は赤字になり、65歳で仕事を辞めた後、収入が夫婦の年金だけでは毎年の年間収支はマイナスになってしまいます。大きな支出は夫婦の海外旅行と家のリフォームだけだとしても、60歳で退職金を含めて3,000万円近くあった貯蓄は、80歳で底を突いてしまいます。

旧世代の典型的なライフプランで考えると、今の50代がセカンドライフを乗り切ることは難しくなることが予想されます。

## （ 妻は当面パートで、夫は70歳になるまでフリーランスで働く ） さらに貯蓄の一部を運用に回し老後資金を増やす



### 改善点

- ①妻は50代のうちはパートで年収50万円を得る  
夫は65歳からフリーランスで働き  
年金+年収80万円。70歳で引退
- ②上の収入増に加えて
  - ・夫婦でNISAを開始  
年40万円×2人で15年間
  - ・退職金1,500万円から半分弱の  
700万円を投資信託で運用
  - ・運用した資金はそれぞれ  
数年に分けて売却する

### 妻も今から働いて世帯収入を増やし 退職前に資産運用に慣れておく

50代なら今から生活費を見直したり、妻が働き出したりすることで、夫の定年までに貯蓄残高を増やしておくことができます。夫は継続雇用後も、70歳になるまで短時間勤務やフリーランスで働き、年収80万円を確保。妻は60歳になるまでパートで年収50万円を得るとすれば、96歳まで貯蓄を維持できます。

さらに、夫婦で50代からNISAの利用を始め、退職金の一部も運用に回します。前者は年平均3%の利回りで、65歳から4年に分けて売却。後者は年平均2.4%の利回りで、75歳から5年に分けて売却し預貯金に移します。すると、100歳でも貯蓄は約300万円残る計算になり、夫婦で長生きしても安心。収入アップと資産運用が今後のカギとなるでしょう。